

第13回

訪問看護研究発表

日時 平成30年2月24日(土)

13:00~16:30

場所 京都テルサ 東館3階大研修室

基調講演



ご本人とご家族の希望を支える アドバンス・ケア・プランニングの 要点とは？

基調講演
竹之内 沙弥香氏

ご本人のレジリエンス(困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生きる力)を高める看護支援が重要。

- ① ご本人が大切にしていることを知る。
- ② 全身状態の良いうちにできることを一緒に考える。
- ③ 心の準備に合わせて、一緒に考える。
- ④ 食事やリハビリなど少しでも体力をつけることに役立つようなことを一緒に考える。
- ⑤ 代替療法の相談。
- ⑥ 治療や生活、希望を持ち続けられるよう達成可能な目標を一緒に考える。
- ⑦ ご本人、ご家族の希望や思いをくみ取り、その思いを地域の多職種チームへ繋ぐことで、ご本人の希望が最期まで尊重されるようにケアを連携する。



プログラム

13:00 開会のご挨拶

13:05 **基調講演**

「ご本人と今後のことを話し合う
～アドバンス・ケア・プランニング～」

京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会 倫理支援部

特定講師 竹之内 沙弥香 氏

14:15~15:55 **研究発表**

座長 **奥島 忍**

訪問看護ステーション縁

田中 美樹

訪問看護ステーションイルカ

演題 **うつ病で再入院を繰り返す
対象者への取り組み**

発表者 ~作業療法と看護の協働の視点から~

訪問看護ステーションおうばく 中村祥士

**長期経管栄養を受ける
患者の便通調整について**

~食物繊維・乳酸菌と姿勢との関連~

荒木クリニック訪問看護ステーション 岩本明香

**意思疎通困難な
ALS 療養者の終末期支援**

訪問看護ステーション秋桜 淵脇明美

**QOL 改善に向けた
在宅でのかかわり**

~高齢者の自己効力感を高めた

看護・介護・医療の協働~

訪問看護ステーションこもれび 袴田千代

**在宅看護ケアにおける
フットケアの実態調査**

訪問看護ステーションひのき 下 里恵

**当グループにおける職場環境の
現状と離職意識に関する調査**

~職場改善と離職防止を目指して~

ティケア・リハビリ訪問看護ステーション京都 本城有香

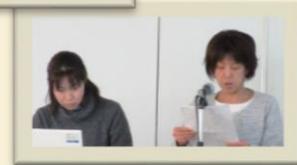
15:55~16:25 **講評**

佛科大学保健医療技術学部看護科

教授 植村 小夜子 氏

16:25 閉会のご挨拶

研究発表・質疑応答



講評



講評

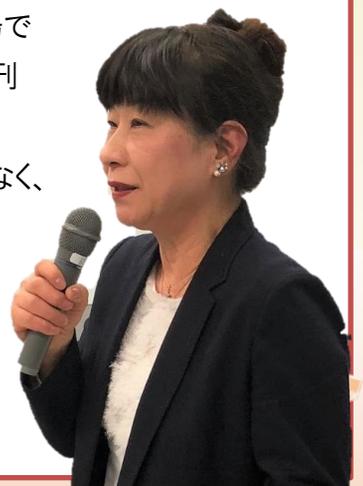
植村 小夜子氏

訪問看護師は、在宅療養者本人とその家族のフィジカル面、メンタル面についてのアセスメント力や、看護介入方法についての判断力が必要です。またそれらを適切に行うことや看護職同士の情報共有を行うこと、他機関、多職種とのカンファレンスや連携も在宅療養者や家族の生活を支援する上で欠かせないことなど、今回の事例を通し、改めて確認できたのではないのでしょうか。

また、実態把握から、まず現状を明らかにするとともに今後の課題の検討もできていますので、これらを継続する中で、さらに実態から明らかにした課題解決に向けた関わりがより重要になってくると思います。今後に期待したいところです。

看護研究とは、調べてわかることとわからないことを整理し、まだわかっていないことを明らかにすることです。最近、自身の本ではございませんが、「看護現場ですぐに役立つ看護研究のポイント」という看護研究をやらされる方のための新刊が出ました(笑)。

私がここで言いたいのは、看護研究を継続していく中で、やらされるのではなく、やりたくなるようになってほしいと思うのです。在宅看護分野で働く訪問看護の領域は、わかっていないこと、明らかにしていくことが、まだまだ多くあると思っています。今後も忙しい中でも必ず継続されて行かれることを切に願っておりますし、協議会の中だけでなく、在宅看護学の学会や在宅ケア学会等で発表されるようになっていただければ幸いです。



研修委員会から一言

第13回訪問看護研究発表会にあたり、お忙しい中、ご指導を頂いた植村先生をはじめ、皆様にご協力いただき無事に終了することができました。

研究発表をされた皆さまにおきましては、慌ただしい毎日を送られている中、大変なご苦勞をされた事だと思います。

今後も引き続き、ご利用様のよりよい生活を支えられるように日々研鑽して研究を継続し、質の向上に努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

